



ささへるニュース

Vol.1



特集 チーム ささへる 結成

- ハンセン病とは ～世界のハンセン病の状況～
- ハンセン病の問題 ～偏見と差別、そこから生まれる貧困～

ささへるストーリー ～エチオピアのリーベンさんのストーリー～

「チームささへる」の活動 ～「教育」「職業訓練」「小規模起業支援」～

「チームささへる」のパートナー紹介 ～エチオピア・全エチオピア回復者協会 (ENAPAL) ～

特集「チーム ささへる」が発足しました！

公益財団法人 笹川記念保健協力財団は、1974年の設立以降約40年にわたって、多くの支援者とともに、世界のハンセン病問題に取り組んできました。40周年を期に、笹川記念保健協力財団を知っていただくため、またハンセン病をとりまく問題から立ち上がり、自立した生活を送ろうとしている方を応援するため、さらに多くの皆様とともに活動を推進していこうと「チームささへる」が発足いたしました。

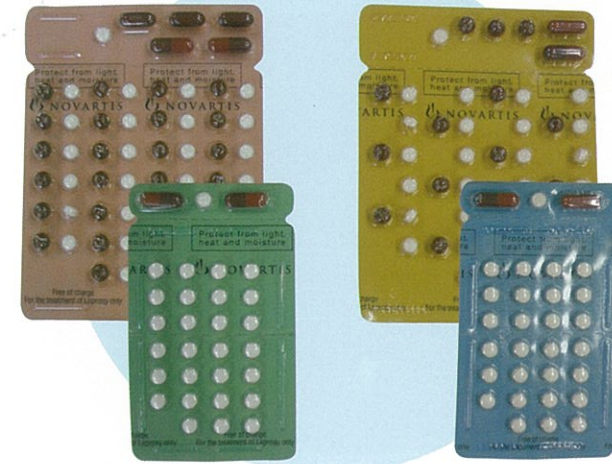
「チーム ささへる」は、財団の英語名 **Sasakawa Memorial Health Foundation** からとったものです。笹川記念保健協力財団の活動に賛同してくださるサポーターの方、この「ニュース」を読んでくださる方、皆様が「チームささへる」です。チーム一丸となって世界のハンセン病問題を考えましょう！！

ハンセン病とは

ハンセン病は、らい菌 (*Mycobacterium Lepae*) によって起こる感染症です。

らい菌は、病原力が極めて弱く、感染してもめったに発病することはありません。また、95%以上の人は生まれながらに

らい菌に対する免疫をもっているため、たとえ感染したとしても自然に治り、発病へと進むことはほとんどありません。たとえ感染したとしても、現在は多剤併用療法 (MDT) のおかげで、早期に治療を開始すれば後遺障が残りも残らず1年以内に完治する病気となりました。



3種類の薬が1つのパックに入った「プリスターパック」大人用(左)と子供用(右)。毎日1錠ずつ飲みます。

ハンセン病の問題

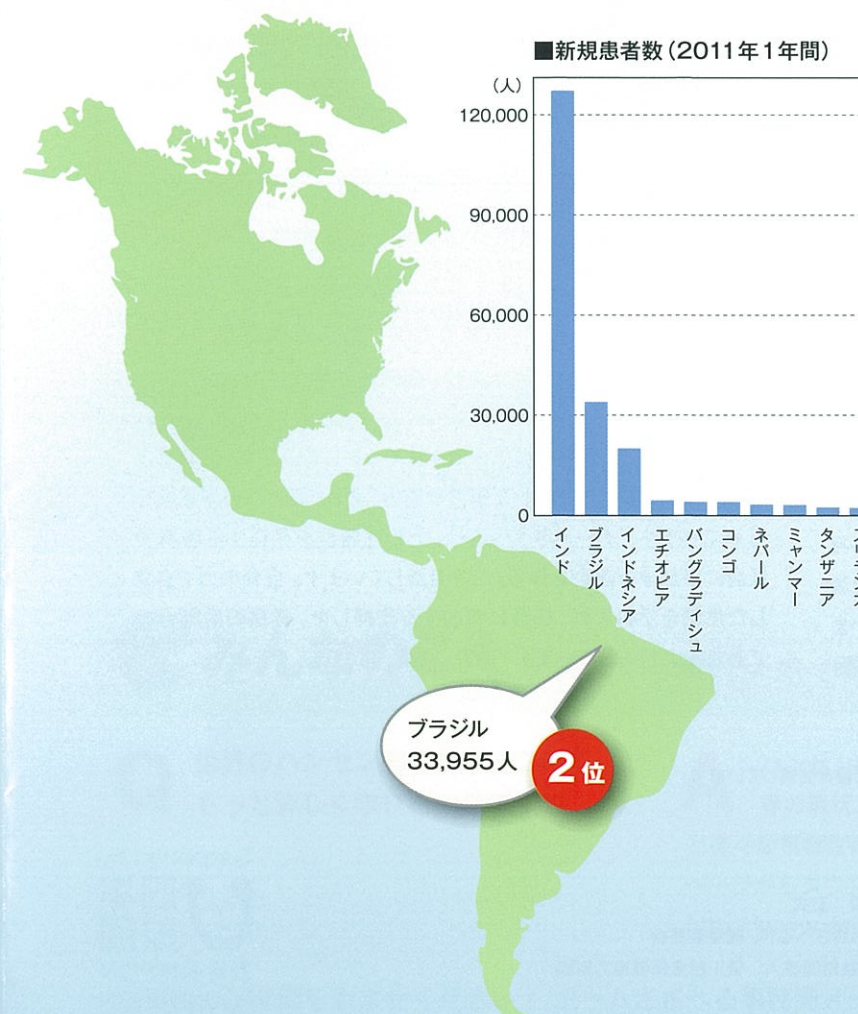
ハンセン病にかかったから、
ハンセン病にかかった家族がいたから……
今でもこのようなことが起こっています

- 故郷・家族から追い出された
- 就職を断られた、解雇された
- 宗教行事や社会行事、家族行事への参加を拒絶された
- 入学や通学を拒否された
- 離縁された
- バスや列車の乗車を拒否された
- レストランに入ることを断られた

世界のハンセン病の状況 (2011年1年間の新規登録患者数)



*エチオピアとタンザニアは2010年の統計を使用しています。



数字で見る世界のハンセン病

16,000,000人

ハンセン病について始めて世界的な統計がとられた1985年から30年間で多剤併用療法によって病気が治った人の数(1600万人以上とされています)。

219,075人

2011年1年間で新たにハンセン病と診断された人の数。下の図のように、東南アジアが最も多く、全世界の約7割を占めています。

1カ国

ハンセン病と診断された人が、人口1万人当たり1人以上いるとされる国*は、1985年時点で122カ国ありましたが、2012年末にはブラジル1カ国になりました。

*世界保健機構 (WHO) の定める「公衆衛生上の問題としてのハンセン病制圧国」。人口10万人以下の国は対象になっていません。



「チーム ささへる」の活動例

教育

学校に通い未来を拓く

教育は明るい未来へのかぎ。ハンセン病が理由となる差別などで、学校に通えない子どもをなくすため、1985年から回復者とその子どもたちの学ぶ機会を支援してきました。

現在、中国、フィリピンをはじめ各国で安定した仕事に就くための高等教育の機会が強く求められています。学費のかかる高等教育を受けることは、回復者やその子どもたちの強い願い。明るく確かな未来をめざして、高等教育の支援に力を入れています。



職業訓練

技術を身につけ仕事に

自分の人生を切り開くために必要な専門技術や資格を身につけたいという若者には、高等専門学校や職業訓練校に通う支援をしています。

また、回復者の女性はハンセン病による障がいや差別だけではなく、女性であるために家を離れることができず、現金収入が得られませんでした。回復者の女性が家庭にしながら収入を得ることができるように、縫製や小物作りなどの職業訓練も行っています。



起業支援

自立の一步 小規模起業支援

回復者が望むのは、働く機会。そんな望みをかなえるために1998年に少額融資を開始しました。

融資を受けた人たちは、ヤギ、鶏、豚の飼育を始めたり、ミシンを買って仕立て屋を始めたり、食品や小物を買って雑貨商を始めたりと、小規模ビジネスを始められています。ビジネスを始めた人たちは、少額融資を通して、働く機会と共に、自分にもできるという自信と誇りも手に入れています。



「ささへる」ストーリー エチオピアのハンセン病回復者、リーベンさん

①before

物乞いを35年間続けてきました。

病気にかかる前には普通に仕事をしていたのに、病気にかかったら仕事はできなくなり、お金がなくなって、食べ物を買うこともできなくなったので、物乞いをするようになりました。他人にごみのような存在として無視され続けるうちに、誇りも

自信もなくなっていました。子どもは、私が物乞いをしているからいじめられていたんです。子どもたちは、私のことを恥だと思っていたと思います。



路上で物乞いをするハンセン病の回復者

②after

小規模企業融資を受けて

少しずつお金をためてヤギを買って、ミルクを売ってまたお金を貯めていったんです。稼ぎは大きくないですよ、まだ。でも、お金を稼げることは、何物にも代えがたい喜びです。35年もの月日がたって、いま、ようやく胸をはって生きていけるようになりました。



笑顔のリーベンさん

「チームささへる」のパートナー ～エチオピア・全エチオピア回復者協会 (ENAPAL)～



エチオピアではハンセン病は遺伝、呪い、天罰などと考えられ、ハンセン病にかかった人は一般社会、故郷、時には家族からも差別を受けます。病気の誤った知識により、病気の診断や治療開始が大幅に遅れ、重度の後遺障が原因ともなっています。偏見や差別のために、都市部のスラムや回復者が集まって暮らす定着村に移り住む人も多くいます。しかし定着村も偏見と差別のため住民の多くは仕事が見つけられず物乞いをし、子どもも学校に通えず、生活環境も劣悪で、強制的に移住を迫られることもあり、安定した生活を送ることができません。

このような実情を個人がばらばらに訴えるのではなく、同じ問題を抱える人が団体として訴え、行動を起こすため、1994年アディスアベバ・ハンセン病回復者協会が発足しま

した。当初は首都のアディスアベバのみで活動を行っていましたが、その後その活動範囲を全国へ広げ、2年後の1996年、全エチオピア回復者協会 (Ethiopia National Association of Persons Affected by Leprosy: ENAPAL) が誕生しました。「自分の問題、自分の人生を他人任せにしない」というENAPALの熱意と決意は、エチオピア各地の回復者を瞬く間に動かし、設立からわずか4年の間に7地域63村支部が立ち上がり、会員数は15,000人を超えました。メンバーの一人はこう話します。「ENAPALとしてつながって、自由を手に入れたんだ。もう後戻りはできない。今では政府や他の団体も認めてくれるようになった。声を発すれば、聞いてくれる人がいる。もう未来への希望を失うことはできない」

みんなのこえ みなさまからお寄せいただいた質問やコメントをご紹介します。

Q 世界のハンセン病の状況について、もっと詳しく学びたいのですが。

A ハンセン病啓発冊子「世界のハンセン病」では、ハンセン病の説明と世界の現状、各国のハンセン病政策の潮流、回復者のライフストーリーなど様々な情報をわかりやすく紹介しています。笹川記念保健協力財団のホームページからダウンロードして下さい！

http://www.smhf.or.jp/outline/pdf/world_hansen2012.pdf

ご意見、ご質問をおよせください！ チームささへる事務局メールアドレス：smhf@tnfb.jp

あなたも一緒に！ 支援のかたち

あなたも「チーム ささへる」の一員となって、ハンセン病回復者と
その家族の自立支援に協力していただきませんか？

ご自身のお気持ちにあった方法をえらんでご参加ください。

みなさまからのご寄付は、(公財) 笹川記念保健協力財団*が責任
を持って活用させていただきます。

*公益財団法人笹川記念保健協力財団は、内閣府より公益財団法人としての認定を受けています。当財団の活動に対する皆さま(個人・法人)からの寄付金については、個人の場合は所得税及び法人の場合は法人税の税制上の優遇措置が適用され、税控除が受けられます。

●チーム ささへる・サポーターズ：1口1,000円以上のご寄付をいただいた方

関心のあるプロジェクトや国を選んで支援ができます。

◎サポーターになったら

「チームささへるニュース」、メールマガジン(任意)、支援した方々からのメッセージカードなどが届きます。

【お申込み方法】公益財団法人笹川記念保健協力財団の寄付サイト

http://www.smhf.or.jp/contribution/type_hansen/ からお願いいたします。

●チーム ささへる ボランティア：国内の活動のお手伝いをして下さる方

笹川記念保健協力財団のセミナーやイベントに参加したり、事務局に力を貸して下さる方です。

◎ボランティアになったら

「チームささへるニュース」、メールマガジン(任意登録)が届きます。

※ボランティアへの登録をご希望の方は、メール(smhf@tnfb.jp)でご氏名、ご連絡先をお知らせください。

イベントやセミナー会場でも登録を承っております。

あなたのご寄付で、たとえばこんなことが支援できます

・高等教育支援

フィリピンで自動車工学やITなどの高等教育を受ける(1カ月当たり) 約2,500円/人

ベトナムで看護学や医学などの高等教育を受ける(1カ月当たり) 約5000円/人

・職業訓練

ネパールで家電修理や工芸品の職業訓練を受ける(1コース) 4,000円/人

・小規模起業支援

インドネシアで小売店開店やヤギや羊を飼う 10,000円/人

ニュースレター編集室より

「医学的に治っても、回復者の多くはハンセン病以前の生活には戻れない。尊厳ある生活を送るための社会的・経済的な地位を取り戻して初めて、この病気は本当に治ったと言えるのだ」とは、自身もハンセン病を体験したことがあり、長年にわたりインドの回復者とその家族とともに活動してきたゴパール博士の言葉です。いま世界では回復者やその家族が、数世代にわたる偏見・差別、貧困

の環を断ち切り、希望と自信を取り戻そうとしています。回復者とその家族一人ひとは豊かな個性や能力、そして限りない可能性を秘めています。チームささへるは、その可能性を発揮する場所や社会に参加する機会を作ることを目指しています。自分の力で自立した生活を手に入れ、社会に参加する後押しを。皆様の活動へのご参加をお待ちしています(星野、宮前、戸引)。

チーム ささへる 事務局＝笹川記念保健協力財団では、さまざまなメディアで情報を発信しています。

ホームページ(笹川記念保健協力財団)：<http://www.smhf.or.jp/>

ブログ(笹川記念保健協力財団ハンセン病事業)：<http://blog.canpan.info/hansenbyo/>

ニュースレター「チームささへるニュース」：年4回発行(6月、9月、12月、3月)

チームささへる事務局(公益財団法人笹川記念保健協力財団内) 発行人：十八公 宏衣

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目2番2号 日本財団ビル5階 編集：チームささへるNL編集委員会

電話(代表)：03-6229-5377 FAX：03-6229-5388 発行元：公益財団法人 笹川記念保健協力財団

EMAIL：smhf@tnfb.jp URL：<http://www.smhf.or.jp>

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION